

平成 29 年度第 2 回矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会 会議録

【会議開催概要】

開催日時：平成 29 年 10 月 5 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

開催場所：別海町役場 1 階 101・102 会議室

出席人数：12 名（欠席 3 名）

オブザーバー：北海道防衛局企画部周辺環境整備課 課長補佐 池本 豊
施設対策第 2 係長 宍野 唯
施設対策第 2 係防衛事務官 向井靖之

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 前回の振り返り
- 3 議 事
議案第 1 号 （仮称）生涯学習センターの配置計画（案）について
議案第 2 号 周辺施設との連携・活用（案）について
議案第 3 号 今後の予定について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

1 開会（司会 総合政策課長）

2 前回の振り返り

※資料 1

（事務局説明）

第 1 回矢白別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催概要及び 7 月に実施した高校生アンケート結果について説明。

（質疑・意見）

なし

3 議事

議案第 1 号 （仮称）生涯学習センターの配置計画（案）について

※資料 2

（事務局説明）

議案第 1 号前段の（仮称）生涯学習センターの配置計画（案）、平面計画等について、資料 2 を用い以下の点を説明。

- ・駐車場は、現多目的広場に普通車 85 台、バリアフリー車 2 台、大型車 2 台、北側には普通車 16 台。ぷらと駐車場と合わせると計 170 台分を確保。

- ・ニコットに突き当たる町道を廃止し、通り抜け道路を整備。
- ・エントランスを南側に、北側に搬入口と裏口を配置し、道道から直接裏口に入ることができるようにしている。
- ・1階に公民館機能、防災機能、2階に公民館機能と福祉機能を配置。
- ・当初より面積が大きくなっているのは、舞台裏の大道具スペースやキャットウォーク、2階段室が2か所になったことが主な要因。
- ・民有地の取得については、地権者と協議を開始している。

(委員)

生涯学習センターはAコープ跡ではなく、ぷらと前広場に本体をもってきて、広場を現在建てようとしている場所に整備してはどうか。その方が民有地の取得に関係なく進めることができるのではないかと。ぷらと、メディア館との連携を考えてもその方が利便性は良いと思う。

平面計画では、事務所がそれぞれ独立してしまっているのが残念。共有した事務所を設ければ、そこに行けば他の人ともお互い顔を見ながら話をするができるような、いろんな年齢層の接点が生まれるのでは。住民が集まるエントランスやホワイエ、そういったところの機能を重視するのであれば、もう少しそこに特徴のある計画を考えてほしかった。事務所はワンフロアして、人の流れをみんなが見える、そのような構想を盛り込んだ配置計画にしてほしい。

図書機能に関しては、学生たちが集まるようにするのであれば、図書コーナーではなく分室として、図書館と同じような貸出等ができ、夜間でも対応できるようなものにした方が使い勝手も良い。

(委員)

役場の事務は縦割りで、横のつながりが薄いと感じる。事務所を1つのフロアにして、いろんなことが聞こえるというのは非常に良いのではないかと考える。その方が住民の利用しやすいのではないかと。

(委員)

ワンフロアが良いのかどうかは分からないが、情報の共有さえしてもらえればいい。

(委員)

ワンフロアの話は、福祉機能と公民館機能がメインだと思う。例えば、住民がそこに行って福祉の話をしていても、実は公民館の方でこういう話があるとか、そういうことが即座に反応できるメリットはある。

住民同士も事務所の中でも、いろんなことを横のつながりの中で話し合っ、人が交わるというような施設にするのであれば、そのような考え方を是非配置に取り入れてほしい。

(事務局)

建物をぷらと前広場に整備するとなったときに、多目的広場は確保してほしいという意見が多くあったので、どこかに確保しなければならないとは考えている。多目的広場を北側に整備した場合には、建物の連携は良いと思うが、多目的広場の使い勝手がどうかということもある。

(委員)

例えば、調理実習室を広場側に向けてイベント用の出入口を設ければ、炊き出しやマルシェのようなイベントのときに使える。将来民有地が確保できれば、もっと大きなイベントができるだろうし、駐車場としても使える。設計のやり方もあるが、広場は必ずしもメインの入り口に面していなければならないということではないと思う。

(委員)

多目的広場が北側というのはちょっと。

(委員)

建物で日陰になるといっても、全く日が当たらないわけではないだろうし、今もぷらとの北側である。

(事務局)

今の意見は、今度検討委員会があるので、民有地の話も含めてどういう配置が良いかということのを改めて検討させていただきたい。

(委員)

今まで検討してきた状況もあると思うが、私も周辺の状況を見ながら、今提案があったように施設を現在の多目的広場に整備できないかと考えていた。そして、周辺施設のぷらと、マルチメディア館との導線確保することが非常に大事であると思うので、民有地も将来に向けてではなく並行して進めてもらいたい。既に建設場所は確定されている認識があった。

(事務局)

今は民有地の取得が確定していないので、計画では現有敷地での提案となっている。ここに多目的広場を残すという考えは、比較的交通量の少ない道路に囲まれており、4方向から使えるということで非常に使いやすいこともあった。

民有地が取得できるとなれば、この配置計画も変わってくるので、3施設の連携や多目的広場の場所、駐車場をどのようにするかは、いろいろ意見をいただきながら、事務所の関係も含めて検討させていただきたい。

(委員)

民有地の取得についてリミットはあるのか。

(事務局)

1 1月末までのある程度確約がとれれば、その敷地を含めた計画は進められると考えている。

(委員)

民有地というのは、資料2でいうと左上の隅の土地か。

(事務局)

そうです。

(委員)

この際、メディア館の東側の土地についても考えていくべきではないか。バス路線の変更も含めて。

(事務局)

土地については、今の意見も検討しながら内部で協議させていただきたい。

(委員)

この構想の基本理念に「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」というものがあるが、そういったことが全然反映されていないのではないか。

3 議事

議案第1号 (仮称) 生涯学習センターの配置計画(案)について

※資料3

(事務局説明)

議案第1号後段のホール席数を1000席程度にした場合の建設費等の試算、過去の小中高合同音楽祭の状況、興行実施の可能性の確認結果、近隣施設の利用状況等について、資料3を用い以下の点を説明。

- ・ホール席数を600席から1000席程度にした場合、面積で客席、舞台等で1.42倍大きくなる。建設コストは約6億円増、ランニングコストは2～3割増、ホール関係のランニングコストは4～5割増と試算した。
- ・合同音楽祭の開催状況を確認した結果、用意していた610席に空きが無いという状況ではなかった。
- ・小中高合わせて1731名。すべての児童生徒が同一の空間で鑑賞事業を行えるホール規模を設定することは難しい。鑑賞プログラムの設定も難しい。
- ・興行実施の可能性について、町の指名参加事業者の聞き取りをした結果、別海町の人口規模、商圈、立地等を考えた場合、1000人規模のホールを有したとしても興行を実施することは難しいとの回答を得た。
- ・過去の札幌コンサートの動員は612名、364名であり、600人規模のホールでも対応できると考える。
- ・これらの状況や近隣市町のホール利用状況も踏まえ、庁内の検討委員会等では(仮称)生涯学習センターのホール規模は600席が適当と判断した。

(委員)

小中高合同音楽祭の開催状況が600席という判断基準にもなっていると思うが、実際に席は空いていたとの説明だったが、空いている席は発表している子ども達の席であって、席は空いていなかったと思う。立見の人はずっと立見だった。

(委員)

建設コストが増えるのは分かるが、6億円も増えるのか。電気料についてもそれしか増えないという考え方もできるのではないか。資料も600席ありきの数字の集め方だと感じた。

(委員)

小中高合同音楽祭の関係で補足だが、空いている席は発表している子ども達とリハーサルに出ている子ども達もいる。なので空席は無いです。

(委員)

私は、600席というのは妥当かなと感じる。子ども達、親も見たいというのが、全部で何回あるのか。1000席造ったらどれくらい町民が利用するのか。ホールの利用目的によっては、稼働率、利用効率の悪いものになる。

規模を大きくするというのは、ランニングコストが増えるだけではなくて、それに伴い可動席のレベルも変わってくるかもしれないし、構造的にも変えなきゃならないことが出てくる。これから人口が減って行って、町の歳入も減ってくるわけなので、そういったことで大きな施設を維持できるのかということも考えなければならない。

3 議事

議案第2号 周辺施設との連携・活用（案）について

※資料4

(事務局説明)

議案第2号の(仮称)生涯学習センターと周辺施設(ぷらと・マルチメディア館)との連携・活用(案)について、資料4を用い以下の点を説明。

- ・3館連携した所質の利用予約システムの整備を検討。
- ・(仮称)生涯学習センターを「文化活動の拠点」、ぷらとを「商業を主体とした交流の場」、マルチメディア館を「中高生が集える場」として位置づける。
- ・ぷらとの和室は利用率が低いので、多目的に使える部屋として改修を検討し、現在中央公民館、マルチメディア館での一般業者の物販等を集約する。
- ・マルチメディア館に、中高生が中心的に使用できる防音部屋や落ち着いて勉強ができるスペースを整備する。
- ・マルチメディア館のホールを生涯学習センターの小ホールに位置づけ、ピアノ発表会等の受け皿にするとともに、それに伴う改修を検討する。
- ・マルチメディア館のアナブース、マルチメディア工房を一体的に使用できるよう改修し、ダンスの練習等にも使えるよう検討する。
- ・マルチメディア館のコミュニティホールを中高生が勉強、読書ができるスペースとして改修を検討する。

(委員)

ぷらとを使いやすくするというのであれば、エレベーターを付けていただきたい。会議室がすべて2階なので、お年寄りの移動や物を運ぶにあたって厳しい部分もあるので。

(事務局)

ぷらとにそのような機能を集約するとなれば、すべて2階になるので、エレベーターについても併せて検討します。

(委員)

先ほど言った基本理念はどう生かされるのか。中高生をマルチメディア館にということになっているが、それでは生涯学習センターのホワイエとかに集まろうとする人は少なくなる。基本理念のあらゆる年齢層が集い、交わるということからかけ離れるのではないか。

(事務局)

3館の連携ということでは、重複する部屋を設けない、余計な部屋を造らないという意見も多くいただいている。生涯学習センターに全く中高生を集めないということではなく、諸室の予約も一体的に管理するという点においては、高校生が使える優先度をマルチメディア館に持たせて、3館全体として諸室の利用実績を押し上げていくという考えをもって提案した。

(委員)

基本方針の3に「子供から高齢者まで多世代が交流する場づくりを目指す」というのがある。交流する場というのは、例えばホワイエやエントランスホールのテーブルに絶えず高校生や一般の人がいて、話ができたり交流ができたりということでは。

この提案では、確かに使い勝手を良くしたり、重複しないようにということで高校生をメディア館にしてしまうと、そういう交わりが無くなる。

(事務局)

3館の連携ということで、生涯学習センターを整備後、マルチメディア館、ぷらとをどうしたら稼働率が上がるかと考えたときに、ある程度色分けをして使った方が良いのではということで提案をさせていただいた。

中高生がすべてそこに集まるということは考えておらず、当然そこを使ってもらいながら、生涯学習センターを使ってもらおうということも想定している。

(委員)

やはり基本理念で「つながり、ささえあい、はぐくむ、創造交流のまちづくり」としているんだから、まずこれをどう達成するのか。それから、連携でどう施設を使うかということを考えていかないと。基本理念をもう一度確認した方がいいと思う。

高校生をメディア館に引っ張らなくても、ホワイエやロビーに図書機能を持たせて、そこに小中高生が居て、高齢者がそういうのを眺めるというだけでも交わりが出てくるのでは。

まずこの基本理念を軸にして、それからメディア館、ぷらとをどう使おうかと考えていかないと。そこが優先されてるべきでは。

(委員)

そもそも色分けなんてしなくていいと思う。

(事務局)

この連携案は決まったものではない。実際に生涯学習センターに高校生が使う機能も残っている。その中で意見も聞きながら、みんなが使えるように考えていきたいと考えている。

(委員)

まだイメージが湧いていないと思うが、中標津のしるべつのように、ロビーに行くと高校生がその機能を利用するとかではなくロビーに居て、それで高齢者もそこに来て、ちょっとした打ち合わせをしたりという、そういうイメージを描いてほしい。

必ずそこに行って何かをやるというわけではなく、そこに行って友達と話をするだけでもそういうことが何かのきっかけになって、いろいろなことが起こる。それを事務所から眺める公民館の職員がいる。福祉の人たちがいる。そして高齢者の人たちがいる。そういうのを眺めているうちに、人と人の接し方だとか、いろんなことが聞こえてくるだろうし、だからそういうことまで想像して建物というのは建てなきゃならない。

メディア館の改修とか大賛成です。だけど、別に色分けする必要なくて、やはりそこにみんなが集まって、いろんなことを考える、そこで発信してもらおう。それから分かれてメディア館の部屋に行くのもいいだろうけれども、まずは新しく建てる場所に集まる。それが描けないと設計コンサルに頼んでも設計者は良いものはできない。

(事務局)

特化した色分けというのは、先ほどおっしゃられたように、核となる施設は生涯学習センターであって、そこに若者から高齢者までが集えるようなイメージをしながら、施設を最終的な検討段階に持っていくというところでは、何にも乖離はしていないということをまずご理解いただきたい。

ただ、1つの施設ですべてのことができるような施設をイメージすると、施設機能がどんどん膨らんでしまい、当然、費用も莫大なものになっていくので、それよりも経済的に効率的にそういう特化した部分も持っていく方法として、今ある施設を利用していけないかという説明であったということ捕捉させていただきたい。

これまでの課題もあって設置場所が決まった時期が遅くなったが、この3年間かけて構想を作り上げてきたことで、いろんな意見をいただきながらその中でそれを取り込んでいって、来年度以降の具体的な設計に向けて、非常に貴重な意見をいただきながら進めている。

実際に民有地の取得交渉も実は今佳境に入ってきているところで、施設の設置場所についても、民地の取得がなければ今の広場にこの規模の建物をはめ込むのは、2階建てでは難しくなっている。ただ、この民有地が取得できれば、もう少しこの平面計画も手を加えていけるだろうと考えている。

この場も町が提案している意見に対してどうこうということではなく、委員の皆さんもそれぞれいろんな考え方をお持ちだと思うので、いろいろな意見を聞かせていただいて、最終的な計画に反映していく上で、有効に町としても活用させていただきたいと考えている。いただいた貴重な意見は、庁内での会議にすべてこういう意見が出たということを反映させながら議論を進めていきたいと考えているので、ご理解をいただきたい。

(委員)

私の考えとしては、建物を多目的広場に持ってきて、外が見える渡り廊下でぷらとの2階につなげるような形にすれば、本当のハードでのつながりが出てくると思う。

たぶん予算が決まっているんだと思うんだよね。何十億で造らなきゃならないとなっちゃうと、こちらが意見を言ったって結局はそのまま出すような形にしかならない。

今聞いていたら、マルチメディア館の改修もぷらとの改修も考えているということで、もっともっと全体的にほんわかした物事の方で、街の中心街の再開発というのをしっかり考えてほしい。

次の世代の町民の人たちが有効に使える施設をみんなで意見を出し合って、将来どうなるのかというところまで想像しながら造っていったらいいのかなど。

3 議事

議案第3号 今後の予定について

(事務局説明)

今後予定している住民参加機会について以下の点を説明。

- ・1 1月中旬～下旬に第3回住民懇話会、1月中旬～2月中旬にパブリックコメントを実施予定。

(委員)

どういうことについて、パブリックコメントを実施するのか。

(事務局)

こういう方向で生涯学習センターを整備するといった、実施計画の原案をパブリックコメントとして実施する予定をしている。

(委員)

前回の基本計画では、どのくらい件数があったのか。

(事務局)

前は30件あった。

(委員)

パブリックコメントの方やり方もなかなかハードルが高いという声を結構聞く。そういうところで発言できない人の意見をどこでくみ取るかというのも大事なところだと思う。

これは、町側というより住民側がちゃんと伝え方を考えなければならないが、町側もパブリックコメントをしたから良いんだという認識はしてほしくないと思う。

(事務局)

意見集約には、アンケート調査や住民大会を開催などの方法があるが、アンケートの回収率が悪かったり、人が集まらなかったりということもある。

今後も、多くの意見を吸い上げるような機会を検討していきたいと考えている。

8 閉会